



おにぎりのでつながらる

深谷市立川本南小学校 六年

鈴木彩花すずきいろは

私には、ちょっととした楽しみがあります。それは、おかまに少しだけご飯が残った時に母が作ってくれる、みそおにぎりを食べる事です。

母が、「食べる人ー。」と、ほっかほかのおにぎりを私や妹の口へ、ホイホイッと入れてくれます。みそのつけ具合が、しょっぱくもなく、良い加減です。

お腹いっぱい、ごちそうさまをしたはずなのに、母の手から食べるみそおにぎりだと、なぜか小腹が空いてきて、口を開けたくなってしまうのです。そんな時の私と妹の姿は、まるでエサを待つツバメの子の様に、口をパクパクし、我先にという感じで、みそおにぎりを待っています。

「はいはい、ちょっと待ってー、わかったわかった。」と、母は指についたご飯つぶを食べながら、うれしそうに言いました。

「お母さんの手から順番に食べるなんて、行儀はあまり良くないけれど、これがおいしいんだよね。」とみんなで顔を見合わせました。

母も子どものころ、残ったご飯でつくる、みそおにぎりを、

祖母から食べさせてもらう時間が好きだったそうです。

祖母が、我が家にとまりに来た時、同じように、みそおにぎりを作ってくれたので、母も私達と一緒に食べていました。母の、うれしそうな表情を見た時、私は家族っておにぎりのでつながらているのかもしれないと、思いました。

私の楽しい時間は、ご飯が少しだけ残らないとやってこない、特別な時間です。今夜は、少し残るかなと、どこかで期待してしまいます。

私も、子どもが生まれたら、ホイホイッとみそおにぎりを口へ運んであげたいなと思います。これは、家族のひみつの伝統になるかもしれません。

お腹が空いた時、何か食べる物がないかと母に聞くと、きまっぴりとおにぎり食べれば？」と、答えます。どんな時でも、おにぎりと言われるので笑ってしまいます。

くやしい事があって泣きながら食べた、いつもよりしょっぱいおにぎり。友達と食べた、冷めてもおいしいお弁当のおにぎり。これからも、おにぎりとおにぎりの思い出は増えていくのだなと思えます。

おにぎりになると、いくらでも食べられるから不思議です。ふんわりおにぎりから、にぎってくれた人の思いが伝わってきます。

母のおにぎりには、「心も身体も大きくなあれ。」という願いが、つまっているのではないかと感じるのです。